

## 宮崎県教員育成指標＜校長等＞

ステージ	校長	副校長・教頭		
資質能力	<p>学校経営の推進者としてのリーダーシップを発揮すべく、指導者並びに管理者としての力量を向上させる。</p>	<p>学校経営ビジョンを描きながら、校長を助け、学校経営の推進者としてのリーダーシップを発揮すべく、指導者並びに管理者としての基礎を身に付ける。</p>		
I イメージ メント	1 創造的企画力	<p>学校の目標を明確化し、具体的行動計画を策定することができる。</p> <p>学校独自の伝統や文化等を大切にし、<u>不易と流行を見極めながら学校の教育目標の具現化を図ることができる。</u></p> <p>新たな価値創出にチャレンジする等、前例や現状を踏まえて、<u>状況変化を的確・迅速に捉え、適切に判断を下すことができる。</u></p> <p>教育情報はもとより、社会の幅広い情報を収集、整理、分析し共有しながら、学校運営に活かすことができる。<u>（アセスメント能力）</u></p>	<p>学校の目標を明確化し、自らの学校経営に対する理念と学校に対するニーズを融合させたビジョンを立てて校長に提案することができる。</p> <p>学校独自の伝統や文化等を大切にし、学校を取り巻く状況を分析しながら、学校の教育目標の具現化した提案をすることができる。</p> <p>前例や現状を踏まえて、<u>他者の意見を取り入れながら状況を的確・迅速に捉え、従来の方針でも根本から考え直す柔軟な発想や行動</u>を取ることができる。</p> <p>教育情報はもとより、社会の幅広い情報を敏感に捉え、学校経営ビジョンや学校運営に生かすことができる。<u>（アセスメント能力）</u></p>	
	2 リーダー シップ	<p>学校経営ビジョンを分かりやすく説明し、職員や保護者等に浸透させることができる。</p> <p>学校経営ビジョンの具現化に向けて、職員の能力や適性が発揮できる組織を構築することができる。</p>	<p>学校経営ビジョンの実現に向けて、職員の担当する業務の意義を理解させ、動機付けを図るとともに、<u>地域や保護者等にも浸透させる取組</u>を行うことができる。</p> <p>学校経営ビジョンの具現化に向けて、職員一人一人とのコミュニケーションを重視し、その能力や適性が十分発揮できる組織を構築することができる。</p>	
	3 人材育成力	<p>個々の職員の状況を把握し、目標達成に向けて支援をタイミングよく行うことができ、<u>職員のキャリアデザインの実現</u>を支援できる。</p> <p>職員が必要な学びを主体的に行っていくことができるような<u>研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励</u>を行うことができる。</p> <p>職員を公平・公正に評価し、フィードバックを行うことにより、<u>勤務に取り組む意欲を高める</u>ことができる。</p>	<p>個々の職員の状況を把握し、育成を意識した適切な指導やアドバイスをすることができ、<u>長期的な視点に立って計画的に職員の育成</u>を行うなど、<u>職員のキャリアデザインの実現</u>を支援できる。</p> <p>職員が必要な学びを主体的に行っていくことができるような<u>研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励のサポート</u>を行うことができる。</p> <p>職員の相談しやすい職場の雰囲気を作り、タイミングよく的確に職務行動を評価し、職員の<u>長所や課題点を具体的にフィードバック</u>することで、<u>意欲を高める</u>ことができる。</p>	
	4 外部折衝力	<p>保護者や地域の思い・期待に応える教育活動を展開することができる。</p> <p>保護者や地域、職員間の調整や折衝を円滑に行い、説明責任を果たしながら、<u>学校の教育力を最大化</u>していくことができる。<u>（ファシリテーション能力）</u></p>	<p>保護者や地域の思い・期待に応える教育活動を展開し、その成果を<u>地域にも還元</u>することができる。</p> <p>校務の調整、保護者や地域、関係機関等との調整が必要な場合に、<u>理由や根拠を明確に示して折衝を行い、納得性を高め協力的な雰囲気</u>を作ることができる。<u>（ファシリテーション能力）</u></p>	
	5 管理運営力	<p>危機管理の徹底を図り、<u>緊急課題に迅速かつ適切に、組織的に対応</u>することができる。</p> <p>学校業務の効率化に取り組み、<u>効率的な予算の執行や管理及び施設・設備を維持、管理</u>することができる。</p> <p>職員の勤務状況、心身の状況などに配慮し、<u>働きやすい職場環境を構築</u>することができる。</p>	<p>緊急課題の状況を把握し、校長の指示に基づき、<u>迅速かつ適切に対処</u>することができ、トラブルに対して<u>組織的に取り組める体制</u>を整備することができる。</p> <p>学校業務の効率化に取り組み、<u>学校予算を把握し、効率的な予算の執行に努めるとともに、学校施設の管理と把握</u>を適切に行うことができる。</p> <p>職員の勤務状況、心身の状況などを把握し、必要に応じて<u>声かけ</u>を行うなど、<u>働きやすい職場環境を構築</u>することができる。</p>	
	II セルフ マネジ メント	1 教職としての 基本姿勢	<p>学校の最高責任者としての<u>社会的責任を自覚した行動</u>をとることができる。</p> <p>仕事とプライベートの区別（ワーク・ライフ・バランス）をはっきりさせ、自分を客観的にみて振り返り、<u>前向きな行動や計画的に行動</u>をすることができる。常に<u>的確な判断</u>のもと<u>安定した行動</u>を取ることができる。</p>	<p>公平な判断と行動をとることができ、部下の<u>フォローアップ</u>を行うことができる。<u>コンプライアンスチェック等</u>を基に、自己の行動を振り返り、<u>軽率な言動を慎み、法令や社会的モラル</u>に沿った行動をすることができる。</p> <p>仕事とプライベートの区別（ワーク・ライフ・バランス）をはっきりさせ、自分を客観的にみて振り返り、<u>前向きな行動や計画的に行動</u>をすることができる。状況に左右されず、部下の<u>プライバシーを尊重</u>することができる。</p>